●第４４回小笠原親善訪問（東京都）　　浅沼　碧海
６月１９日（木）～６月２４日（火）

年に一度の八丈島へのおがさわら丸寄港便。今年で４４回目となる親善訪問に、訪問団本体のメンバーとして参加させていただいた。八丈島からは１３８名、お子様を含めると１５０名以上の方々が訪問団として同船していると報告を受けた。東海汽船底土待合所にて出発式を行い、乗船し、小笠原へ向かう。

八丈島からの訪問団本体として、課長１名、役場職員２名、六人会３名、浅沼で７名の参加であった。

翌朝 20 日 8 時 30 分に、船上にて青龍丸戦没者追悼式を行った。昭和 19 年 5 月 11 日、輸送船「青龍丸」が、父島の北北西 80 マイルで潜水艦の攻撃を受けて沈没した歴史がある。同船には、八丈島から動員された方々が引き揚げのために乗船しており、計 57 名が戦死し、生存したのはわずか 15 名だった。今年で戦後 80 年となり、戦没者の冥福をお祈りし、船上より花・焼酎を、ご親族をはじめ、乗船された方々と共に献じた。

11 時ごろ小笠原諸島父島に到着した。待合所には小笠原村議員、役場職員の方々がお出迎えくださり、宿へチェックイン後、昼食は父島で人気のポキ丼を食した。

午後は役場職員２名の方が同行してくださり、小笠原ビジターセンターをはじめ、世界遺産センター、小笠原海洋センター、観光で有名な各ビーチ等を視察させていただいた。道中では現在、小笠原でも公共施設の建て替えが進んでおり、保健所をはじめ、教員住宅等の工事説明があった。父島（母島含め）は限られた土地の中での建設のため、住宅にせざる得ない状況等を伺った。また八丈町との違いとして、村営住宅があり、村役場職員等は住宅に入ることができる。ただし、退職後等は土地を探して、家を建てるなどしない限り、離島の決断をしなければいけないことなどの話があった。

18 時からは、二見港船客待合所にて八丈町訪問団歓迎交流会を開催していただいた。本来であれば返還祭の時期に寄港便が来ての参加となるのだが、今年は都議会議員選挙と重なったため、返還祭は 1 週間後の開催となるとのこと。交流会では父島の住民の方とも話す機会をいただき、有意義な時間を過ごす中、南洋踊り、父島・八丈島の太鼓演奏、スティールパンの披露があった。父島の太鼓は六人会の影響を受け、パフォーマンスが進化していっていると副議長からの説明もあり、文化交流の大切さを交流会にて学ばせていただいた。

21 日（土）の２日目は、午前中に海上視察として、東京都自然ガイドの方に同行いただき、遺産区域である「南島」へ上陸した。世界遺産の自然を保持して行くためのルール等の説明も受け、八丈島の今後の自然保護への向き合い方など、参考になる点が多かった。また、今年入庁した村職員の方２名も同行してくださり、初々しい視点での小笠原の話も伺えた。

午後は自由な時間があったので、避難所である小笠原高校へとつながる、津波緊急避難路を歩いてみた。休憩時間や朝夕に涼みに入るという海。八丈島よりも日常に海が近くにある事を感じる反面、津波への対策は常に向き合っていかなければならない現状を感じた。

その後、父島在住の議員の方たちが開催くださった議員交流会に参加し、意見交換をさせていただいた。

22 日（日）の 3 日目は早朝に出発し、母島へ向かう。

9 時半ごろに到着し、チェックイン後、村役場職員の方が３名同行してくださり、母島島内視察を行った。

母島の乳房ダム、ロース記念館、住宅、公共施設等、御幸之浜を視察後に、再生エネルギーの実証実験の現場を案内していただいた。東京都・小笠原村・東京電力パワーグリッド株式会社３者で連携し、母島で太陽光パネルと蓄電池を設置し、1 年のうち半年程度を視野に、太陽光発電のみで電力供給を行う取り組みである。太陽光パネルの設置場所は、世界自然遺産区域外の自然環境や専門家の意見等を踏まえて検討されたそうだ。また火力発電の燃料を運ぶのに対してもかなりの費用がかかるとのことで、母島ならではの村を支える取り組みである。

その後、ヘリコプターの着陸場所を上から見させていただいた。父島・母島では緊急搬送は自衛隊のある硫黄島からヘリコプターが来て、患者を乗せ再度、硫黄島に戻る。その後硫黄島から都内へ飛行機移動となり、8 時間以上の時間を要することとなる。年に３０件ほどは緊急搬送が行われているとのことで、各離島の環境の違いを学ばせてもらった。

北港近辺へ連れていっていただいたが、写真で見る居住地は現在は見る影もなく、北村小学校の石段、門柱のみが残っていた。そこの平らな土地には巨大な木等が生い茂り、小笠原の自然の壮大さ、力強さを体感させられた。

午後は探照灯基地跡や東港探照灯火砲台等を視察させていただいた後、脇浜なぎさ公園にてカヌーの練習風景等を見させていただいた。また同日には母島で働く方の結婚式があり、海や公園に装飾が飾られていた。これぞまさに小笠原らしい風景に胸が熱くなった。

夜は母島に住む議員、村役場職員の方たちに歓迎会を開いていただいた。夜には星空の下、結婚式終わりの住民の皆様が２次会を行っており、母島の人との距離の近さを体感した。

23 日（月）は母島から父島への出発まで、宮城ジャイアン議員に時間をとっていただき、再度島内視察をさせていただいた。宮城議員がなぜ母島に住むことになったのか。都議会議員選挙の結果、二人ともに１期目の議員として何がやれるかなど、世代

も同じで、感覚も近しい議員との意見交換の時間はとても勇気づけられることが多かった。

母島を出発し、父島を経由して八丈島。そして東京に向かう。父島から出発する船上にて、小笠原でしか味わうことのできないお見送りをしていただいた。漁船がおがさわら丸の周りを走り、人々が飛び込んでいく。映像等では見たことがあったが、実際に体験するのとでは感動が違った。本当に来てよかった。来てくれてありがとうという気持ちが伝わってくるのだ。この体験をまたしたい。八丈島でもできないかと反省させられるほどであった。

船内では東京へ向かう村役場職員の方々と意見交換を行った。いつか八丈島で野球大会をやりましょう！と握手をし、来年以降の交流のきっかけもいただいた。

また船内では、以前に小笠原支庁で観光に関する課で働いていた人と話す機会があった。その方は小笠原だけでなく、八丈等にも知見があり、「小笠原のお見送りは週に1 度の着岸だからできること。八丈島は真似する必要はない。各島々の特色を生かした観光が大事。」という言葉を発せられ、ハッとさせられた。感動のあまり八丈にも小笠原のようなおもてなしの文化を持ってこれないかと考えていた。ただ各島々で特色がある。改めて考えて、小笠原の良さ・環境面の厳しさ、また八丈島の恵まれている部分等を反復することができた。各島々に行き、体感し知ることで、また八丈島を俯瞰することができる。小笠原村議会議員をはじめ、村役場職員の方達に大変お世話になった視察であった。